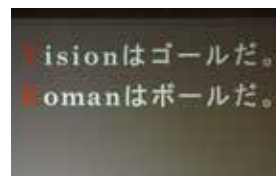




## 2019年秋障害者問題全国交流会 滋賀県での開催に向けて



8月5日に開催致しました「2019秋障全交 in 滋賀 決起集会」にご出席頂いた皆さま、誠にありがとうございました。懇親会でも、各委員会の委員長から県内の団結に向けた力強いお言葉を頂き、主催委員会として身が引き締まる思いでした。

さて、隔年で開催される障害者問題全国交流会には私もこれまで何度か参加させて頂きましたが、全国遠方からも集結される経営者の皆さんが人間尊重経営の実践として障がい者雇用を語り、更にどうすれば広がるかと自主的に熱く語っておられる姿に、当初は不思議な感覚を覚えたものでした。というのも、障がい者雇用の推進は行政や福祉機関が先導して初めて企業に振り向いて頂けるもの：と思っていたからです。障全交の光景を見て、一筋の光を見たように頼もしくさえ感じられました。

同友会はなぜ障がい者雇用に取り組むのか？第1回の障全交が滋賀で開催された当時（1983年）は今のように入生活困窮者や成年期の孤立児童といったその他の社会的問題は少なく、働き辛さを抱える人の象徴が障がい者だったのではないかと考えています。しかしながら現在は、超高齢化・人口減少社会の中で働き辛さを抱える人は多様となっており、困難さの種別を越えたところでのユニバーサルな社会が必要と感じています。人的社会問題の解決が福祉という枠で収まることなく、人間本来の「働く」という姿を通じて人が生かされる：障全交 in 滋賀はそんな社会の到来に向けて、身近な地域の担い手である中小企業にできることを模索する機会になればと願っています。(小)

滋賀県中小企業家同友会

## 2019年 障害者問題全国交流会 in 滋賀

### 第1回 決起大会

とき 2016年8月5日(金)  
ところ フェリエ南草津

# 障全交 in 愛媛 開催実績から学ぶ

## 開催を通じて実現すべきこととは

『2019年障害者問題全国交流会 in 滋賀』の開催に向け、8月5日フェリエ南草津にて決起大会を開催しました。県内企業や福祉関係から約50名が参加。

愛媛開催時の実行委員長を務められた北野賢三様、副実行委員長の正岡尚起様、愛媛同友会代表理事の杉本太一様をお招きし、今だから語れるエピソードや、ご苦労されたことなど、貴重なお話を伺いました。



3年後に迎える障害者問題全国交流会 in 滋賀。その頃滋賀県中小企業家同友会も設立40年を迎えます。

障がい者問題というとなかなか感じませんが、障がい者の方に関する問題のみを扱うのではなく、健常者でも言われたことしか出来ない人など様々な方がおられます。人の個性に適応した、人間一人ひとりが活躍できる社会、会社を作ることが必要だと考えられます。社会貢献のために障がい者雇用をするのではなく、自社の戦力となるから採用するのです。

既に障がい者雇用を行っている株式会社駒月の岸村社長は『障がいも個性』という考えをされていてすごく印象的でした。そのような考えを持って特別扱いではなくごく普通に関わっていくことが大切です。

滋賀県中小企業家同友会では職場見学・体験受け入れマップを実施し、雇用するだけでなく1社何かしらの形で関わるということを目指しています。マップには38事業所の登録(9月28日現在)があり、3年後に100社の登録を目標として活動を進めています。

### 思わず愛媛開催を 名乗り出た

第18回障害者問題全国交流会 in 愛媛は昨年2015年10月22、23日に開催。開催のきっかけは、2008年9月に東京で開催された第14回障害者問題全国交流会に北野さんが参加されたこと。大企業には障がい者雇用を推進しているが、愛媛には中小企業ばかりで、どうやって障がい者雇用をすすめていくべきなのか、と思っていたところ、障害者問題全国交流会で中小企業

がこんなにも障がい者雇用につ

いて考えているということを知り、感銘をうけられました。北野さんはぜひ愛媛でも実施したい!と、その場で名乗り出たそうです。目標とする姿は、あてにするからあてにされること。人を生かす「生業」から「企業」へ。「企業」から、世の中の器となる「器業」へ。世にあてにされる企業の姿を目標に取り組みました。

### 人口減少と 中小企業のこれから

日本の労働人口は減少傾向にあり、2013年と比較し2060年には約4割に

2110年にはさらにその半分になると言われています。まだまだ先の話のように思いますが、今年新卒で入社した人たちが定年を迎えるのが2060年頃。その人たちのために経営者は会社を守る必要があるので。

労働人口が減少すると、特に中小企業は人材確保が難しくなります。そのため社員を会社の戦力となるように育て上げていく必要があります。障がい者問題を学び改善を行うことは健常者の個性にも対応し、健常者にとっても働きやすい環境となります。企業が変わることで、会社の未来を変えるチャンスとなります。



一般社団法人いきる 代表理事(障全交 実行委員長) 北野 賢三 様

## 「vision」に向い、「Roman」を遂行

まだ障害者問題全国交流会を終えて間もないため、結果と言えるようなものは表れてはいないようですが、特別分科会でも地域の方と一緒に災害時にできることなどを話し合い、愛媛県民の特に南予地方の方には同友会をあてにしている方が増えてきているそうです。

体験受け入れマップを作成するにあたり7月にアンケートを配布し、現在約80社から回答。回答数より、企業の意識も変わってきているように感じられています。

障害者問題全国交流会の開催には目標を立てることが大切。社員、地域、障がい者が目的、意義をしっかりと持ち、共に「Roman」であるボールを蹴りながら「vision」である「ゴール」を目指します。滋賀でやる意味を考えると、おのずと「vision」が見えてきます。

愛媛では決起大会の参加者

は滋賀県の半分程度。滋賀県での意識の高さから成功が伺えるとおっしゃっていました。

### 本番までの準備は念には念を

正岡さんはある程度コンセプトが出来てからの参入となりました。本番までにすべきことを挙げ、組織図を作成し、委員会を設けそれぞれの委員長が細かい計画を作成するという仕組みを運用。当日の役割分担、スケジュール、備品や配布資料の管理、看板関係や会場図まで、あらゆる資料の作成をされました。

必ずイレギュラーなことは起こりうると思つて、事前の準備がどこまでできるかが大事だ



上田消防建設株式会社松山店 代表取締役 (障全交 副実行委員長) 正岡 尚起 様

そう。いかに臨機応変に対応できるかにかかってくるこのこと。

お見せいただいた資料は滋賀同友会がに提供いただき、参考にしながらもれなく進行できるように進めていきます。

### 恐喝と恫喝(笑) 歴代2位を誇る動員数

杉本さんは動員を担当。役員研修などでPRしましたがほぼ洗脳のような状態だったそうです(笑)。

400名の動員を目標に予算立てしていましたが、予算計上にミスがあることが判明。動員数を増やさないと採算がとれないことになりました。追加で100人、計500人を動員しなければいけないことに。同友会会員に対し現在の参加者数をこまめにメールで配信し、呼びかけ。そのメールには興味を引くネタを仕込むなどの工夫をされました。そういった工夫と恐喝・恫喝(笑)を繰り返し続けた結果、大阪に次ぐ歴代2位の動員数631名を集めることが

できました。

予算計上でミスをした責任を問うことも、誰がするのかと争うこともなく、皆が進ん



特別養護老人ホーム梅本の里 統括施設長 (愛媛同友会 代表理事) 杉本 太一 様

で動き出したそうです。

最後に当日の様子をまとめたビデオを放映いただき、滋賀開催に向けてのイメージが持てる決起大会となりました。成功に向け本格的に始動しますが、是非愛媛同友会を参考にし、皆が「自分がやるんだ!」という気持ちを持って取り組んでいきたいと思つています。

## 質 疑 応 答

- Q1** 土壇場でプラス100人動員しないといけないということになりましたが、そこからどのようにして集められたのですか?
- A1** 連日連夜電話をかけ、恐喝と恫喝です(笑)。学校の先生等、外部の方との例会もあり、その際にも誘致しました。やると決めたらやる! それだけです。
- Q2** 600人集められましたが、そのうちの県内外の方の内訳を教えてください。
- A2** 参加費を払って来てくださったのが約550名。そのうち県内が200名、県外が350名でした。
- Q3** 滋賀の同友会には現在612社加盟しており、そのうち社会福祉関係は30社程度ですが、愛媛ではどのくらいですか?
- A3** 愛媛の同友会は400社程度で、うち社会福祉関係は10社程度です。
- Q4** 障がい者の家族の方からの意見や想いを伝えられたことはありましたか?
- A4** 特別文化会にはご家族の方も参加されたことがあり、グループ討論ではご家族の強い想いを知ることができよかったです。
- Q5** 経営が順調でない会社は、障がい者雇用をする余裕がない、と言われると思いますが、いかがでしょうか。
- A5** 経営が傾いている会社程、人の力を活かしていない。人材の能力を発揮させるために会社が変わる必要がある、と伝えています。

# ユニバーサル委員会 活動・トピックス

## 2019秋 障全交in滋賀開催に 向けた研修会

中同協から報告者を招いて学び、障全交in  
滋賀開催の意義を深め合い、共有します。

日時：2017年3月2日(木)  
15:30～18:00

場所：未定

報告者 松井清充氏  
中小企業家同友会 専務幹事

テーマ

同友会が障がい者問題に取り組むワケ  
～その歴史と理念から人を生かす経営を深める～

開催担当：ユニバーサル・共育・経営労働委員会、理事会

※人を生かす経営の深い学び合いです。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

## お邪魔します!

ユニバーサル委員会では、実習マップ登録  
への協力依頼や、障全交開催に向けた支部  
例会の開催など県内各支部への訪問を増や  
したいと考えています。報告者の派遣や内容  
の相談なども遠慮なくお声掛けください。

## キラメキ Lake Meister

レイクマイスターコーナーでは、ハンディを越え  
て、輝いて働いている方を特集しています。今回は  
甲賀市にある株式会社ティグ水口の山崎 直人さん  
にお話をうかがいました。

— 山崎さんのお仕事について聞かせてください。

入社から2年8ヶ月が経ちました。最初はプレス  
機を扱う仕事から始め、今は溶接を担当していま  
す。最初は溶接が上手く行かず穴を開けてしまう失  
敗がありましたが、だいが慣れてきて、2年経った  
今では後輩に教える側になっています。

— 山崎さんにとってティグ水口はどんな会社ですか?

みんな明るく、コミュニケーションを取り合う職場です。分からないことが  
あれば互いに教え合います。社内でのイベントや親睦会の企画もあり楽し  
い会社です。入社にあたっては「遊びも仕事も大切に」という社風に惹  
かれました。

— これから挑戦したいことを教えてください。



家族からポストを作ってくれないかと言われる  
ことがあります。まだ自分には難しいことですが、  
慣れてきたら自分自身の「ものづくり」にもチャレ  
ンジしてみたいです。溶接もコミュニケーション  
ももっと上手くできるようになって、もっと仕事を  
任せてもらえるようになりたいと思います。

### 経営者から一言

ティグ溶接はアナログ、つまり人の技術。人の技術を生かすことは「人が育つ経  
営」に繋がります。社員の子どもに「ここで働いてみたい」と言ってもらえる会社が  
一つの目標です。

山崎さんには先輩から学んだ良いことを、今度は後輩へと伝えていく「良いリ  
レー」を繋ぐことを期待しています。

代表取締役社長 中前 直也  
株式会社ティグ水口(甲賀支部) 甲賀市水口町伴中山2677番地



株式会社ティグ水口  
山崎 直人 さん

## 支援の現場から ～特別支援学校編②～

滋賀県立聾話学校は、県内唯一の聴覚特別支援  
学校として約90年の歴史があります。

高等部卒業生は500名を超えますが、その多くが一  
般就労しています。かつては「手に職をつける」職業教  
育でしたが、障害者雇用促進法の施行以後、豊かなコ  
ミュニケーション能力を獲得させることをはじめとし、幅  
広い職種に対応できるキャリア教育へと発展していま  
す。また、産業技術科や情報印刷科といった専門学科  
を設置し、実習を通じた現場対応力の育成にも努めて  
います。

聴覚に障がいがあることでの就業上のご心配をされ  
ることがありますが、近年、人工内耳等の技術進歩によ

り、きこえもずいぶん改善しています。また、きこえに対す  
る困難を、視覚の積極的な活用により、補完している生  
徒も少なくありません。

次年度も5名が一般就労させていただく予定をして  
おりますこと、  
心から感謝申  
し上げます。

今後とも、ご  
支援をいただ  
きますよう、よ  
ろしくお願  
い申し上げます。



製造現場での現場実習の様子